

発表演題名	石灰硫黄合剤による薬物中毒患者が院内で嘔吐し、硫化水素ガスを発生させた 1 例
1. 目的 近年、硫化水素による自殺者が急増している。このような救急現場で我々が二次災害の危険に遭遇する可能性は高い。 今回、研修派遣先の病院で石灰硫黄合剤による自殺企図の薬物中毒患者が院内で嘔吐し、硫化水素ガスを発生させ、危うく二次災害が起こる可能性があった症例を経験したので情報共有を図ることを目的とし報告する。 2. 症例 精神疾患を現病に持つ 40 歳代の女性が、自宅トイレ内で自殺目的により農薬（石灰硫黄合剤）を服用、その後、家族に発見され救急要請に至った。 救急隊到着時の観察結果は、JCS300、呼吸 6 回（深く）、脈拍 102 回／分（橈骨）、血圧 136／100、SpO₂ : 78%（room）、瞳孔 4×4（＋／＋）、心電図：洞性頻脈であった。観察結果から救命対応と判断し、同時に人工呼吸による呼吸管理を継続して救命センター搬送に至った。 入室時、JCS100 まで改善していたが、その後意識レベル低下。気管挿管による呼吸管理を図ると同時に胃管挿入して胃洗浄を行ったところ、傷病者が突然嘔吐したため体位変換及び吸引を行ったが、吐物から医療スタッフの目や鼻に対して強い刺激臭を放ったため、全員緊急避難し初療室内を換気して対応を図った。二次災害等の発生はなかった。 3. 考察 石灰硫黄合剤は、強アルカリによる粘膜刺激や酸と反応して発生する硫化水素による中毒が問題になる。リン酸第一カリなどの酸性肥料と混合して硫化水素が発生し吸入するという事故も起きている。 今回、院内で適切な対応により二次災害を防ぐことが出来たが、これが救急現場や搬送途上の救急車内で発生していたと想定すると、大惨事を招いていたかも知れない。 我々救急隊は、同様の発生機序で起こる薬品を把握すると共に万が一の際、全員が共有の対応認識を持つことが必要である。	